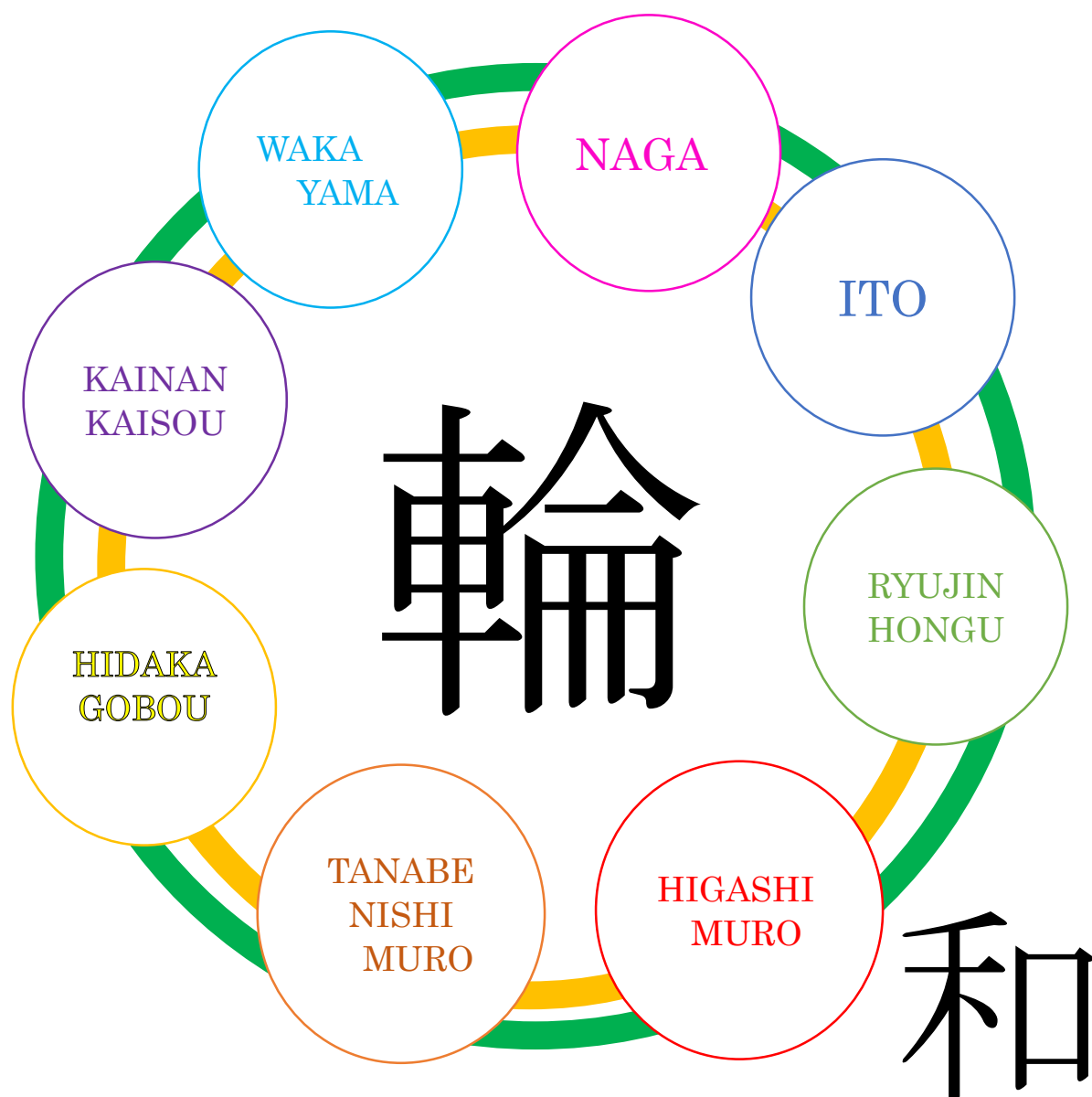


2015年度 中体連サッカー指導者研修会

～中体連の輪＝和を大切に～

活動報告書



(一社) 和歌山県サッカー協会 技術委員会 指導者養成部

目次

1. はじめに

WFA 指導者養成部 47FA インストラクター 藤村 温

2. サッカー中体連研修会のこれまでの経緯

WFA 指導者養成部 47FA チーフインストラクター 平 祐基

3. 2015年度の内容の報告

- (1) サッカー中体連研修会の目的
- (2) 日時及び参加者一覧
- (3) ガイダンス
- (4) きのくに和歌山国体少年の部成果と課題の報告
- (5) 午後の指導実践のガイダンス
- (6) コーチング法・プランニング
- (7) 指導実践交流会

4. 今年度の成果と課題

5. 来年度に向けての具体的な取り組み

6. 参考資料

- (1) 2015年度の要綱
- (2) 研修会の声（アセスメントより）

7. あとがき

WFA 指導者養成部 47FA インストラクター 中岡 暁紀

1. はじめに

本中体連指導者研修会は昨年（2014年）度から始まったもので、今年で2年目の開催となります。一般社団法人 和歌山県サッカー協会（以下、WFA）から、指導者の質の向上を目指した「指導者研修会」の新規事業開催の提案を受けて、WFA 技術委員会指導者養成部が担当して企画、運営をしているものです。

「指導者研修会」のターゲット決定の際に技術委員会で重視した点は以下の2点です。

①技術研修会の有無と頻度

②普及の観点を大事にすること（ライセンスの保有は問わない）

結果、特に全体での技術研修会が行われていないのが3種であり、中でも、ライセンスをお持ちの先生もいらっしゃるが、専門競技ではないサッカーの顧問をされている（それでも真摯に生徒と向き合って苦闘されている）先生方がいらっしゃる中体連をターゲットにすることにしました。

昨年度は、紀北・紀南の2地区に分け、それぞれ攻撃・守備について1回ずつ、加えて全県を対象に GK に関するものを1回の計5回行いました。現役の中体連の先生方だけでなく、クラブユース連盟からのオブザーバー参加や、その時点では中体連ではない方のご参加もあり、改善要望点もいくつかありましたが概ね好評裏に閉講できました。

本年度も複数回の研修会を開く予定でしたが、今回の1回のみにとどまったことは我々の反省点であり、開催を楽しみにしておられた方々には大変申し訳なく思っております。今回の中体連指導者研修会では、「2015 紀の国わかやま国体」から見えた具体的な成果と課題を整理し、先生方の心に火をつけ、中学校の指導者としての「やりがい」を実感していただけるような内容を目指して企画してきました。ご参加いただいた方々のアセスメントからも、一定の評価はいただけたとの認識をしております。

本研修会は生まれたばかりです。今後も、試行錯誤を繰り返しながらになるでしょうが、大切に発展させていきたいと考えています。それも、できるだけ先生方のお気持ちに寄り添いながらの発展をと考えています。今回から主担当に、先生方と同じ中体連の中岡インストラクターを任命しました。先生方のお気持ちを最も近くで感じ取っているはずで、ぜひ忌憚のないご意見ご要望をいただき、本研修会、ならびに「中体連指導者の輪＝和」の発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。

主役である「選手（生徒）」のために、指導者（先生方）の主役の働きを祈念いたしまして、はじめの言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

WFA 指導者養成部 47FA インストラクター 藤 村 温

2. サッカー中体連研修会のこれまでの経緯 WFA チーフインストラクター 平祐基

サッカー中体連研修会は2014年度に第一回を開催した。日程・内容は下記の通り。

○日程について

[紀北コース]

前期：平成26年12月14日（日） 和歌山大学附属中学校 （35名）
後期：平成27年 2月11日（水） 桃源郷運動公園 （28名）

[紀南コース]

前期：平成26年12月23日（火） やたがらすサッカー場 （18名）
後期：平成27年 2月14日（土） 田辺スポーツパーク （16名）

[GKコース]

平成27年 3月 1日（日） 田辺スポーツパーク （21名）
（ ※ GKコースは県下全域対象 ）

○内容について

[前期]

攻撃に関する戦術的視点・分析理論・ディスカッション・実技

[後期]

守備に関する戦術的視点・映像分析ディスカッション・プランニング実習・実技

[G K]

GKに関する戦術的視点・ディスカッション・GK理論・実技

第一回中体連指導者研修会では、以下の2点に重点を置いた。

- ①受講者が積極的に参加しやすく、主体性を持って現場に持ち帰ることができる内容
→「要望」や「悩み」を把握し、現場指導に生かせるような展開に
- ②サッカー初心者・未経験者でも理解しやすく、指導者として得るものがある内容
→映像の活用（編集したものを運営委員会で検討し、用語など分かりやすく）
→講義と実技をリンクさせ、頭で分かっていることを体験・体感

[①について]

中体連指導者の多くが「他の校務」に追われている現状を感じた。練習時間を確保している方の意見が、多くの方の参考となっていた。また「練習メニューを知りたい」との要望が多く、前・後期ともいくつか実技で紹介した。後期には練習メニューの考え方・作り方の講義を取り入れ「練習メニューに意味や意図を持たせる」プランニング実習も行った。

[②について]

戦術理論や原理原則の内容を、実技で確認した。「このミスはなぜ起きたのか？」
「改善するためにどうコーチングするか？」と、プレーしながら指導者としての視点を整理していくための発問を投げかけ、具体的なコーチングの方法を共有した。

【トピックス】

- ・JFAより松田 浩氏（指導者養成関西担当）を招き、受講生の方とのディスカッションや研修会全般の講評をしていただいた。

3. 2015年度の内容の報告

(1) サッカー中体連研修会の目的

中体連の指導者を対象に、サッカーの基本的な指導ができる人材の養成および指導力のレベルアップを目的に任意研修として実施する。

(2) 日時・及び参加者

日時：平成27年2月21日（日）9：00～17：00

参加者：参加者の申し込み人数は、29名あり、当日の参加者は合計25名であった。

その他、本研修会は、

- ・技術委員長、井谷
- ・ユースダイレクター 松尾
- ・47FAインストラクター、平、吉野、中岡が担当した。

(3) ガイダンス

今回の中体連指導者研修会全体のコンセプトは、自分たちで作上げる研修である。中体連サッカー部の顧問をしている指導者同士が、研修会を通じて繋がりあい、輪＝和を大切にしながら切磋琢磨できる研修にしようと呼びかけた。

また、藤村氏からの「中体連指導者研修会へ参加される皆さまへ」と題したパワーポイント資料とビデオをもとに、選手を主人公に、分析からスタートし自分たちの強みを生かそう。そして、目の前のことにとらわれすぎて、現状への不満で終わる（言い訳にする）のではなく、「あるべき姿」を描くことによって、選手・指導者にとってよりよい環境づくりに向け挑戦していく気持ちを高めよう。という提案とともに、指導者自身も主人公であることが伝えられた。※以下受講生の声を一部抜粋。

- ・主役は選手だが、先生たちも同じ！この言葉にやる気を確認しました。
- ・藤村氏の言葉が印象的であった。仕事、サッカー、プライベートにいたるあらゆる場面で自らが主人公であるという視点と、一方で客観的に物事を分析していく多面的な視点が必要であると感じた。
- ・動画では、サッカーとは異なる分野の指導法（経営再建）について視聴でき、サッカーという軸から少し違った視点で見通しを立てやすかったです。

などと言う声があり大変好評であった。

技術的な方向性として、ON＝「オン・ザ・ボール」の局面に指導の視点を着目して行おうとコンセプトを伝えた。これは、きのくに和歌山国体で得られた「個の育成の充実」の必要性と、中体連選手の現状を踏まえての設定である。



(4) きのくに和歌山国体少年の部成果と課題の報告

2015年度に本県で開催された、きのくにわかやま国体サッカー少年男子の部の活動報告、成果と課題を吉野インストラクターが行った。

16(17)名の選手の内、3名の選手が中体連出身の選手である。

- ・森下尚人 衣笠中学校出身 近大新宮高校 (早生まれ選手)
- ・鈴木玲弥 串本中学校出身 和歌山北高校
- ・家本大渡 明和中学校出身 初芝橋本高校

今回の報告では、上記の3選手を含むチーム全体の成果と課題について映像を交え具体的に報告があった。結果は、第3位で大会を終え、目標であったベスト4を達成した形となった。成果と課題についての詳細はさけるが、今回の中体連研修会で協調されたのが、「チームとしては一つになり戦うことはできたが、個人の技術や、判断力は全国レベルに近づくには今後さらなる努力が必要であること。そして、今回の参加している指導者の皆さんにもその一役を担って欲しい」という報告であった。

(5) 午後の指導実践のガイダンス

午後の指導実践に向けて、「オン・ザ・ボール」に関するテーマを提示しグループに分かれて指導案の作成や時間などを伝えた。

Dグループのみ「ポジショニングの獲得」という意味で、「オフ・ザ・ボール」の準備が入る形となることなどを説明した。



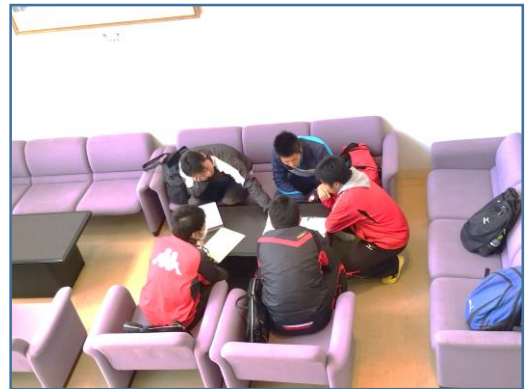
- | | | | | | | | |
|-------|----|-----------------|---|------|-----|-----|-----|
| Aグループ | 守備 | 【ボールを奪う技術 | 】 | W-up | TR① | TR② | 40分 |
| Bグループ | 攻撃 | 【パス&コントロール | 】 | W-up | TR① | | 20分 |
| Cグループ | 守備 | 【ポジショニングの獲得 | 】 | | TR① | TR② | 20分 |
| Dグループ | 攻撃 | 【ボールを失わないポゼッション | 】 | | TR① | TR② | 20分 |
| Eグループ | 攻撃 | 【シュートのテクニック | 】 | | TR① | TR② | 20分 |

- ・指導者は各グループ5名～6名に分かれた。グループ分けでは、地域間の交流も考えたが、「今後の各地域で指導実践などに繋げる」という狙いで地域のメンバーを集める構成とした。

(6) コーチング法・プランニング

午後の指導実践に向けて、プランニングの考え方や、実際のトレーニング現場でのコーチングの在り方について、講義を行った。その後、一人ひとりが指導案を考え、グループごとに持ち寄り、指導実践用の指導案を作成してもらった。

プランニングをするにあたり、今回は「オン・ザ・ボール」の局面や「個人戦術」にフォーカスした。攻撃・守備のテクニックに着眼し、「オフ・ザ・ボール」についてはあくまで“テクニックを発揮するための準備”という部分の捉え方だけにとどめた。どのグループも、積極的でオープンな話し合いをしており、オンの局面でミス＝現象が出るようなオーガナイズを考えていた。



(7) 指導実践交流会

限られた時間ではあったが、今回は11名の方に指導実践を行っていただいた。選手役は、本研修会へ参加した指導者が行った。これについては、事前にアナウンスを行い、体調面・身体面などの準備を整えていただくとともに、「選手目線」を体感して頂くことで今後の指導に生かしていくことができるというインストラクター

の狙いも事前に伝えて行った。指導実践後は、トレーニングにおける狙いの共有や、こだわりの部分などを共有するためのディスカッションを行った。サッカー未経験者の先生方からの意見などもいただき、前向きな指導実践交流会であったが、後に述べる様な課題もあるので参加者の方々に力をお借りしながら今後につなげたい。



午後の流れ		
13:10~	現場準備OK	オーガナイズ 各自アップ
13:30~	Aグループ	【守備】 ボールを奪うテクニック W-UP→TR①→TR②→ ※時間:40分→ディスカッション10分
14:20~	Bグループ	【攻撃】 パス&コントロール W-UP→TR① 時間:20分→ディスカッション10分
14:50~	Cグループ	【守備】 ポジショニングの獲得 TR①もしくはTR②(両方でもOK) 時間:20分→ディスカッション10分
15:20~	Dグループ	【攻撃】 ポゼッション(ボールを失わない) TR①もしくはTR②(両方でもOK) 時間:20分→ディスカッション10分
15:50~	Eグループ	【攻撃】 シュートのテクニック→ゴール前の攻防 時間:20分→ディスカッション10分

4. 今年度の成果と課題

今年度の成果は以下の3点が挙げられる。

- ① 指導者のモチベーションが高まったこと
- ② 全体の交流の場となったこと
- ③ 来年度に向けて勢いのつく形で終わることができた。

各先生方の意欲が大変高く、「指導実践交流会もプレー

ヤーの気持ちが変わり、自分の指導に活かそうだ」「自分たちでやってみることで気付けたことがたくさんあった」などの意見が寄せられた。

一方で、今年度の課題は以下の2点が挙げられる。

- ① 企画において多忙な時期に研修会を設定したことや、アナウンス時期が遅くなり、事前に他の予定が入っていた先生方が参加できない形となってしまった。
- ② プランニングの時間確保や、サポート体制に問題があり、未経験者の先生方をはじめ研修としては不満足な形になった。



5. 来年度に向けての具体的な取り組み（案）

- ① 今年度の活動に際して・・・8月末（紀北・紀南の2地域に分けてガイダンス）
 - ・担当インストラクターによる中体連研修会についての年間計画の伝達
 - ・中体連の課題の共有（グループディスカッション）
 - ・インストラクターによる指導実践（コーチングデモンストレーション）

紀北地域：紀北～海南海草地域：海南市（人工芝）

紀南地域：御坊～東牟婁地域：新宮ヤタガラスG（人工芝）

内容：17：00～17：50 今年度の流れ ガイダンス

18：00～20：00 インストラクターによる指導実践

- ② 10月29日（土） 13：00～GK理論・実技 次回に向けて
- ③ 11月26日（土） 16：00～指導実践交流会準備※希望者宿泊
- ④ 11月27日（日） 終日上富田SC多目的B（指導実践交流会）
- ⑤ 1月末 ※予算に応じて講師招聘等検討

6. 参考資料

- (1) 2015年度の要綱
- (2) 研修会参加者の声（アセスメントより）



2015（平成27）年度 中体連指導者研修会 開催要項

1. 目的 中体連の指導者を対象に、サッカーの基本的な指導ができる人材の養成および指導力のレベルアップを目的に任意研修として実施する。
2. 主催 （一社）和歌山県サッカー協会
3. 主管 （一社）和歌山県サッカー協会 技術委員会
4. 受講資格 つぎのいずれかに該当する者
(1) 中体連に加盟している中学校のサッカー部顧問
(2) 今後中体連でサッカーの指導に携わる意志のある中学校教職員
5. 定員 特に定めない
6. 内容 2月21日（日）午前：講義及びディスカッション（指導案検討）
午後：グループに分かれ指導実践
7. 開催日時 2月21日（日）9：00～17：00（予定）
8. 会場 2月21日（日）午前：上富田文化会館小ホール
午後：上富田スポーツセンター多目的グラウンドB
8. 講師 JFA 公認 47FA チーフインストラクター，
和歌山県トレセンスタッフ
9. 受講料 無料（有資格者に対するリフレッシュポイント付与はありません。）
10. 受講申込 各郡市の専門委員長までお申し込みください。
※申込み期限 平成27年2月1日（月）
11. その他 ①会場までの交通費、食費、宿泊費（必要な方）、飲料水代等は受講者負担とします。
また、研修会中に負傷した場合の治療費等も受講者負担とします。
②受講者は各自、スポーツ傷害保険に加入していることが望ましい。万が一負傷した場合、主管者側では応急処置のみ行い、それ以降は受講者本人の責任において行うものとする。
③雨天決行（警報が発令されている場合でも開催いたします）。その場合、参加するかどうかは受講者各自の責任において判断するものとし、主催者側は一切の責任を負わないものとします。

－ お問い合わせ先 －

貴志川中学校 三橋政司

ガイダンスについて

◆成果・肯定的評価

- 具体的に今日学ぶことや指導していく中で大切なことが確認できました。
 - 「主役は先生たちも同じ」この言葉に責任とやる気を確認しました。
 - 藤村氏の言葉が印象的であった。仕事、サッカー、プライベートにいたるあらゆる場面で自らが主人公であるという視点と、一方で客観的に物事を分析していく多面的な視点が必要であると感じた。
 - 講習会のコンセプトが明確に提示され全体の流れがよくわかりました。
 - 指導者同士のコミュニケーションをとり和歌山県全体のレベルアップに関わっていきたいと感じた。動画では、サッカーとは異なる分野の指導法（経営再建）について視聴でき、サッカーという軸から少し違った視点で見通しを立てやすかったです。
 - 自分の指導者としての立場を再認識することができました。
 - レンガの積み上げの意識が大切だと感じました。
 - 選手が主人公、先生も主人公の言葉が印象に残った。また、誰の笑顔や喜ぶ顔が見たいのかを考え、自分が何をすべきかをしっかり考えたい。
 - 方針を選手に決めさせることを実践してみようと思いました。旅館の再編とチームの再編もメンバーの声を聴くことからというのがよくわかる。オフにサッカーをして遊ぶ子供が減った気がする。
 - 「生徒が輝く指導」について考えることができました。勝ち負けでなく個性を生かす長期的なプランをもって指導実践をしていく必要性を感じました。
 - 生徒が主人公になれる指導がしたいと感じました。チームの強み、弱みを自チームでも確認したいと思います。
- 準備される方大変さ、いつもありがとうございます。

◆課題・要望・改善点

- 熱い思いが伝わってきた。指導者の自己紹介を含め**中体連の課題を共有できれば。**

国体の成果と課題について

◆成果・肯定的評価

- 中学年代で詰めなければならないことが明確になった。
- 練習の組み立てや今の課題に加え、今知りたいことが知れ、自チームにも還元できる内容であった。本当に大人のプレーのようでした。
- 成果と課題に関しては、和歌山県の選抜チームのものなので自分のチームも少なからず共通しているものもあり、自分のチームのことも意識しながら聞くことができた。また、今どのようなプレーが中学生に求められているのかがわかった。
- 映像も交えて非常にわかりやすく、これからの自チームのトレーニングにも生かせると感じました。
- 他県との差がどういったものかを見た時に、パスやコントロールといったところに課題があると感じたのでそういった部分をトレーニングでつめたい
- わかりやすい解説やプレーがありゲーム展開が動いていくサッカーで「どこをみればよいか」がよくわかりました。わかやま国体の話から U-15 までにおさせておくべきことがわかりました。
- VTR をみると守備の狙いの大切さがよくわかりました。
- 粘り強い守備とトップの守備の意識を強化したいと感じました。
- 自分たちが関わった選手が進学後活躍しているのを見ると改めて責任を感じました。
- 国体立ち上げにあたって、コンセプトで組織的な守備、意図的にボールを奪うなど DF に重点を置いていたことがわかった。その中でも DF において成果があったが、攻撃では簡単にボールを失う課題があるなど今後中学年代でも実践していかなければならないと感じた。

◆課題・要望・改善

- 時間的な制限もありますが、和歌山国体のチームとして、どんなコンセプトを持たれていたのか。育成年代で身に付けておきたい技術や態度についてもう少し焦点を絞ってお話いただけると理解が深まったと感じます。
- 守備は積極的にボールを奪いにいっていたし、組織的にもうまく動いていたと感じた。しかし、ボールを奪われた後や、前を向かれた時の DF ラインのポジショニングが悪かったので簡単に裏を取られていた。そういった課題を中学生年代から少しでも改善できたらと思っている。
- 実際に戦われた方が、全国との壁を感じられ、映像で見せていただけて良かった。ヘディングとスローインのシーンもあれば・・・
- コンセプトを選手が具体的に実践していったその指導がどのようになっていたのかが気になりました。

コーチング法・プランニングについて

◆成果・肯定的評価

- プランを練る際に組み立ててメニューを組んだのでメニューのより細かい所まで注意することができて深く考えることができた。
- 指導案の書き方について指導を受けたのが初めてだったので大きな示唆を得ることができました。
- プランニングについて、非常に道筋を立てられていてわかりやすかった。
- 今まで「何となく」のものになっていたので、改めて試合→分析→トレーニング→試合のサイクルの重要性を感じた。
- 目標を達成するためのメソッドを逆算的に考えていくというのに共感しました。プレッシャーのある状態での練習の大切さもわかりました。
- MTMの考えは、基本的なところだけれど、改めて大切なところだと感じた。こんなゲームがしたいから、このW-up、TRにしようとしてまでしっかりと描いていきたい。
- 育成の指導は「躰」という考え方がよく理解できました。
- 「TR②」をするために「TR①」があるといった2段階の練習法があると知り指導方法に活かしていきたいです。
- ティーチングばかりの自分の指導を反省。もっと子どもの声を聴いてないと思いました。
- プレーしながら選手の気持ちも分かったので現場に戻ったら声かけも変わってくると思います。
- 自分ももっとプランを立てなければと感じた。

◆課題・要望・改善

- ドリル→実践のプランニング具体的なフレームがあってもいいかと思いました。
- グループでのプランニングの時間がもう少し必要だった。
- じっくりプランニングしたかった。あわただしかったように思います。
- 代表の意見以外にも他の先生方の案を知りたいので指導案をなんとか（PDFでも）送ってもらえたらありがたい。
- 自分達のグループの段取りがよくなかった。もう少しあの流れで話したかったような気がします。（時間が足りない）また、コーチング法や、プランニングの時間がもっと欲しいと感じた。
- 時間がない中で行ったからかも知れませんが、少し誘導的すぎだったように感じます。
- トレーニングの組み立て方について非常にわかりやすかった。だが、経験のない先生方にはテーマ、キーファクターが難しそうであった。
- プランニングする時間がもっとあればよかったです。
- 現象の取り出し方がもっと知りたいです。
- 今日の練習の狙いを先に選手に伝えるのか、練習を通じて選手に気付かせたほうがいいのか悩みます。改めて指導の難しさを知りました。

指導実践交流会について

◆成果・肯定的評価

- 協会が示し切れていない部分にフォーカスした指導もあり勉強になった。テーマ設定も良かったと思います。
- 指導実践を通して「ああだこうだ」言えるし、言ってもらえて非常に良かったです。また「オン・ザ・ボール」にフォーカスしたのも良かったです。
- 平 INS に褒めていただいて嬉しかった。
- 色んな人のメニューを見られるのが良い。考えやイズムを知れ自分のサッカー観も広がった。
- メニューを体験できたのが何よりも得たものです。いろんな方の指導実践が観られて勉強になりました。
- 定期的な選手目線でトレーニングを感じることで指導に還元できる部分がたくさんあると実感しました。
- いろいろ考え TR をしても、どこで指導のタイミングを入れるのか、何を伝えるかと言うことは難しいと実感した。生徒に気付かせるための仕掛けを用意していく必要があると感じた。
- 前回よりも効率よく指導実践が進んだので色々勉強させて頂きました。
- 練習内容のバリエーションも色々ありましたし、目的がはっきりしていて選手たちに伝える際の参考にしようと思いました。
- 自分のオーガナイズではないものを指導実践したが、やってみて気づく部分もあり、良かったと思う。また、ほかの人の指導実践が体験できて良かったし、自分の指導方法もみつめ直せた。
- 実際プレーしてみても選手の目線に立てました。また、論理的な指導と感覚の指導を使い分けたいと思いました。
- 生徒に参加してもらわずに教員が汗をかいて自分の体で覚えて帰ることに意味があると感じた。
- 笛のフリーズ、プレー中のシンクロがとても参考になりました。

◆課題・要望・改善

- 経験のない人も参加しやすかった。まとめの所で経験のある人を使って頂けると見本となり、なお良かったのではないかなと思う。
- インストラクターの指導をもっと観たかったです。「口では言いにくいと思うので指導実践を行った後、紙に書いてアドバイスをもらうなど意見が欲しい。」

会場・運営面・全般の要望(まとめ)

- 内容が盛りだくさんでした。皆が同じ指導をする必要はないかと思いますが、もっとコーチングで協調すべきことを共通の意識としてもてば中体連が盛り上がるのではないか。
- 日程はジュニア駅伝ともかぶり普段駅伝も観ているので応援できず残念だった。
- 時間に余裕がないので昼からのセッションにもう少し時間が欲しいです。
- 指導案が欲しい。(メモできる状態で指導実践していないため)
- コピー、印刷できる環境を考えて頂きたい。
- 自分の地域の近くであればあるほど参加しやすい。
- 要項をもう少し頑張ってもらえば出張でこられるのかな。主催に中体連サッカー専門部とか。
- 経験のない人も参加しやすかった。まとめの所で経験のある人を使って頂けると見本となり、なお良かったのではないかと思う。
- インストラクターの指導をもっと観たかったです。「口では言いにくいと思うので指導実践を行った後、紙に書いてアドバイスをもらうなど意見が欲しい。」

来年度へ向けての要望・時期・回数・具体的な内容

- 事前に各地域にテーマを連絡し、オーガナイズを考えてもらい指導実践を行う。ディスカッションで出された意見をもとに次の日に再チャレンジしてみる。1日目午後スタート、2日目午前(田辺スポーツパーク会場、むろべ泊や新宮やたがらす会場、サンかつ泊など)
※以前県トレの選考会で宿泊し指導者同士が交流できたことが良かった自分にとっても刺激になりました。
- 準備が大変だと思いますが、春頃にもしてもらいたいです。実践の部だけでもしてもらえたら嬉しいです。できれば秋開催がありがたいです。
- 去年は回数が2回あったので、できればそれくらいの内容のものでオフェンスとディフェンスに分けて研修会をしてほしい。
- 講習会中にもありましたが、複数回の開催と、地域別の開催などを要望します。また、攻撃と守備などテーマをしぼって行ってもよいかと思います。他郡市の先生方と話ができて、指導を観ることができるなど交流が持てたことが本当によかったです。年に2、3回あればうれしいです。指導実践については是非来年もよろしくお願いします。
- もう少し暖かい時期が良い。また2月下旬は忙しいから他の日程がよいと考える。上富田、田辺へのアクセスが快適になり冬場でも安心して会場まで来ることができます。フィジカルトレーニングなどもしてもらえると嬉しいです。
- 名前がわかるゼッケン、名札を用意してはどうでしょう。もっとコミュニケーションが取りやすいかと思います。
- もう少し暖かい時期で半日など集中してできるとありがたいです。2月は忙しいので・・・
- 次回もディスカッション、実践ができるようなものがあればうれしいです。
- インストラクターのみなさんの負担にならないようにしてもらいたいです。

7. あとがき

「輪＝和 地域、指導者が互いに手を取り合って・・・」

慌ただしい毎日の中、2015年度のサッカー中体連指導者研修会の開催にあたり、多くの皆様にご尽力をいただきありがとうございました。また、参加していただいた中体連サッカー部顧問の先生方、積極的なご参加ありがとうございました。

本研修会は、2015年度で2年目を迎えました。今年度は、「中体連サッカー指導者の輪＝和」を大切にしよう。というコンセプトをもとに開催しました。加えて技術的な指導でのテーマを、サッカーにおけるON＝「オン・ザ・ボール」の局面での個の強化に設定しました。これは、きのくに和歌山国体で得られた「個の育成の充実」の必要性と、中体連選手の現状を踏まえての設定です。研修会全体を通して皆様の前向きな姿勢が表れ、アセスメントを見る限り大変有意義な研修会となったかと思えます。

私たち中体連サッカー指導者をとりまく環境は決してやさしいものではありません。少子化の影響で、各学年において満足な練習環境が得られなかったり、日常の業務が忙しく、中々グラウンドに出ることができなかったりと、悩みは尽きないものです。ですが、藤村氏のパワーポイント資料にあったように、「できることと、できないことにとらわれすぎず、まずはありたい姿を描きましょう」と言う言葉のように、自分たち中学校の教員にしか取れない生徒との距離感や、人間教育などの指導方法があるようにも感じます。人間としては思春期、サッカー選手としては育成年代にあたる選手に関わる我々、中体連サッカー部の指導者ができることはたくさんあるかと思えます。

そこで提案です。もうすでに十二分に地域で手を取り合って活動されている地域もあるかと思いますが、「一人でできないことは、みんなで助け合う」の考えを軸に、地域の輪を更に充実させて広げていきませんか？ 2015年度の段階では各地域には、ベテランの先生方もいらっしゃるかと思えます。ですが、今後数年後を考えるとベテランの先生方の大量退職が見込まれ、さらに中体連サッカー専門部も今よりも一層若返るかと思えます。先輩方から助言が得られなくなったその時に悩んだり慌てたり、一人の人が苦勞したりしなくて済むように、今から地域の輪を大切に、各郡市の輪がさらに県下全域の地域の輪とつながり合い、助け合える。そして、高め合える中体連サッカー専門部を目指しませんか？

指導力向上はもちろんですが、組織としてもさらに充実したものになっていきたいものです。選手を次の世代へ送り出す立場の中学校教員・サッカー部顧問として、みなさんで知恵を出し合いながら手を取り合っていきましょう。

田辺市立 東陽中学校

WFA 指導者養成部 47FA インストラクター 中岡 暁紀

～中体連の輪＝和を大切に～